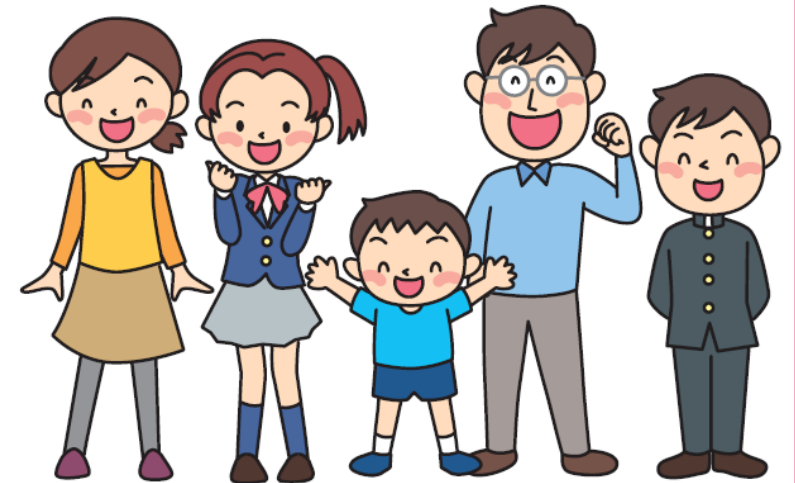


ペアレンタルコントロールに関する調査の結果報告



1億人のネット宣言
もっとグッドネット



(一社) 安心ネットづくり促進協議会

目次

1. パレンタルコントロールの定義

2. 調査概要

3. 本調査でわかったこと

- (1)子どものネット利用に関する保護者の意識
- (2)パレンタルコントロールの実施状況
- (3)パレンタルコントロールを実施している例、していない例
- (4)保護者がパレンタルコントロールを考える要素



Webアンケート



グループインタビュー

ペアコントロールの定義

「ペアレンタルコントロール」を子どものネット利用について「システム上での管理」や「ルール」を設けて管理・防止しようとしていることとしました。

システム上で管理

システム例	概要
フィルタリング	青少年にとって有害な情報が掲載されているWEBサイトへのアクセスを制限する
アプリ利用制限	アプリのインストールや利用を制限する
利用時間制限	機器の利用時間を制限する
決済・課金手段制限	決済や課金手段を制限する

家庭内でルールを設ける

家庭内ルール例

「平日は●●時まで利用しても良い」など利用時間に関する約束

「悪口や不快な内容を書き込まない」などコミュニケーションに関する約束

「ゲームでは●●円まで利用しても良い」など課金に関する約束

「写真や住所等により自身や友人などが特定されるようにする」など情報の取り扱いに関する約束

ポイント

「目の届く範囲で利用させている」「ネット利用について子どもと話し合う」などの対策はペアレンタルコントロールに含んでいない



調査はステップ2方式で実施しました。

ステップ1で定性調査による仮説抽出、ステップ2で仮説をもとに対策と効果を検証しました。



グループインタビュー

調査実施日

2020年2月14日~16日

調査機関

株式会社インテージ

対象者条件

<共通条件>

- ・ご自身の年齢：20~59歳
- ・長子の学年：小学校3年生~高校1年生
- ・長子利用端末・キャリア：お子さま専用/親/家族共通のスマートフォン、タブレット
- ・長子の端末購入関与：すべて自分/主に自分

<グループ構成> 1グループ6名 × 6グループ = 35名 (1グループ120分)

- ①あんしんフィルター/フィルタリング以外の親の制限あり 女子 小学校3年生~6年生
- ②あんしんフィルター/フィルタリング以外の親の制限あり 男子 小学校3年生~6年生
- ③あんしんフィルター/フィルタリング以外の親の制限あり 女子 中学校1年生~高校1年生
- ④あんしんフィルター/フィルタリング以外の親の制限あり 男子 中学生1年生~高校1年生
- ⑤あんしんフィルター/フィルタリング以外の親の制限なし 心配あり
- ⑥あんしんフィルター/フィルタリング以外の親の制限なし 心配なし



Webアンケート

調査実施日

2020年3月19日~24日

調査機関

株式会社インテージ

本調査対象者条件

- ・20~50代男女
- ・長子の学齢が小学1年生~高校3年生
- ・子どもが主に利用している機器が、スマートフォン・タブレット※ネットワークに接続して利用できるもの

回収数

6,149s回収 ※ウエイトバック集計では6,150s

	TOTAL	男性20-39歳	男性40-59歳	女性20-39歳	女性40-59歳
TOTAL	6149	457	2667	912	2113
小学生低学年	775	170	169	274	162
小学生高学年	1080	119	405	262	294
中学生	1931	106	914	228	683
高校生	2363	62	1179	148	974

(1)子どものネット利用に関する保護者の意識



Q

① ネット利用上の「心配事※」を考えたキッカケは？

※対象：保護者全体



※「心配事」とは安心協が定めるネット利用に関する以下の10要素。

- ① 学習・成績への影響
- ② スマホ依存
- ③ 高額課金
- ④ 対面コミュニケーションへの影響
- ⑤ ネットいじめ被害／加害
- ⑥ 個人情報の漏洩
- ⑦ 誘い出しや性的被害
- ⑧ 身体や健康への影響
- ⑨ 不適切な情報発信
- ⑩ 有害情報に触れることやその影響

A

- ◆ ニュースや新聞などの情報が最多だが心配事の内容によっては実体験も
- ◆ 学習・成績、身体・健康への影響
(⇒実際の体験による認識が最多)
- ◆ ネットいじめ被害／加害
(⇒学校・PTAの情報も他に比して高い)

ポイント

マス媒体やインターネット情報と実体験が過半数を占めている



(1)子どものネット利用に関する保護者の意識



Q

②気になる心配事は、なに？



※対象：保護者全体

※「心配事」とは安心協が定めるネット利用に関する以下の10要素。

- ①学習・成績への影響 ②スマホ依存 ③高額課金 ④対面コミュニケーションへの影響
- ⑤ネットいじめ被害／加害 ⑥個人情報の漏洩 ⑦誘い出しや性的被害
- ⑧身体や健康への影響 ⑨不適切な情報発信 ⑩有害情報に触れることやその影響

A

◆ 利用時間に関することを最も心配しているが、他の要素も気になっており、心配事の無い保護者は僅少なお、学齢や性別によって特徴もみられた

〔小学生〕身体等への影響、高額課金、不適切情報の率が高い

〔中学生〕学習・成績への影響、ネットいじめ被害／加害の率が高い

〔女の子〕誘い出し、性的被害の率がやや高い

ポイント

利用時間に関する依存、学習や健康影響を心配する意見が最多なのは2018年に実施した同様の調査結果と同じ状況



(1)子どものネット利用に関する保護者の意識



Q

③実際に起きた（起きそうになった）心配事は？

※対象：保護者全体
N=6,150

※「心配事」とは安心協が定めるネット利用に関する以下の10要素。

- ①学習・成績への影響 ②スマホ依存 ③高額課金 ④対面コミュニケーションへの影響
⑤ネットいじめ被害／加害 ⑥個人情報の漏洩 ⑦誘い出しや性的被害
⑧身体や健康への影響 ⑨不適切な情報発信 ⑩有害情報に触れることやその影響

A

◆スマホ依存、学習・成績への影響、身体や健康への影響が2～3割が多いが、「特にない」も5割近い

利用時間関係		⑤ネットいじめ被害／加害	6.3%
①学習・成績への影響	19.3%	⑥個人情報の漏洩	4.5%
②スマホ依存	28.6%	⑦誘い出しや性的被害	2.0%
⑧身体や健康への影響	19.3%	⑨不適切な情報発信	4.4%
その他		⑩有害情報に触れること影響	5.9%
③高額課金	4.9%	特になし	47.9%
④対面コミュニケーション影響	3.9%		

ポイント

利用時間に関する依存、学習や健康影響は、気になることと実際に起きた（起きそうになった）ことが相関しているが、他の項目は気にはなるものの問題になることは多くない



(1)子どものネット利用に関する保護者の意識



Q

④心配事を意識した時期は？

※対象：実店舗購入者&心配事あり



※「心配事」とは安心協が定めるネット利用に関する以下の10要素。

- ①学習・成績への影響 ②スマホ依存 ③高額課金 ④対面コミュニケーションへの影響
- ⑤ネットいじめ被害/加害 ⑥個人情報の漏洩 ⑦誘い出しや性的被害
- ⑧身体や健康への影響 ⑨不適切な情報発信 ⑩有害情報に触れることやその影響

A

- ◆ 子どもが自由に利用できる機器（保護者や家族とは共用しない機器）を購入した後から必要性を意識している
- ◆ 依存、学習、身体への影響に関する心配の割合が高い

トップ5	購入前	購入後	わからない
スマホ依存 (N=2,191)	12.6%	72.2%	15.3%
学習・成績への影響 (N=1,592)	15.9%	69.4%	14.7%
身体（目、姿勢ほか）や健康への影響 (N=1,668)	21.1%	64.2%	14.8%
対面コミュニケーションへの影響 (N=755)	15.8%	55.8%	28.5%
不適切な情報に触れることや、その影響 (N=1,415)	16.9%	55.6%	27.5%

ポイント

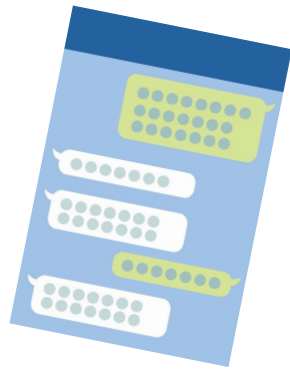
ペアレンタルコントロールを意識する大きな理由の一つが子どもが自由に利用できる機器の利用になっている



(1)子どものネット利用に関する保護者の意識



Q

⑤ SNSの利用について
どう感じている？※対象：SNS利用者
N=5,057

A

- ◆ SNSはコミュニケーションツールの一つとして切り離せない存在になっている。
- ◆ ただし、小学生の保護者は知らない人との交流制限が必要とも回答。

SNS利用の
メリデメ意識

学齢別	メリット派	デメリット派
全体 (N=5,057)	62.2%	37.8%
小学生低学年 (N=525)	40.4%	59.6%
小学生高学年 (N=824)	49.9%	50.1%
中学生 (N=1,608)	62.6%	37.4%
高校生 (N=2,101)	72.1%	27.9%

ポイント

保護者は、SNSを“制限すべきもの”とは考えておらず、メリットを享受しながらリスクを回避した利用を意識している



(2)ペアレンタルコントロールの実施状況



Q

①ペアレンタルコントロール
をしている？※対象：保護者全体
N=6,150

A

- ◆ 7割は何らかの形で行っている※
- ◆ 2割はペアレンタルコントロールではないもの話し合いなどを実施
- ◆ 1割は何もしていない

ペアコン対策の有無

何らかの形でペアコンを実施 68.8%	ペアコン以外で実施 18.7%	何もしていない 12.5%
------------------------	--------------------	------------------

※ペアレンタルコントロールを行っている保護者のほとんどが家庭内ルールを設けており、フィルタリング等のシステムはそのうちの約半分が利用

ポイント

ペアレンタルコントロールの基礎は家庭内ルールになっている



(2)ペアレンタルコントロールの実施状況

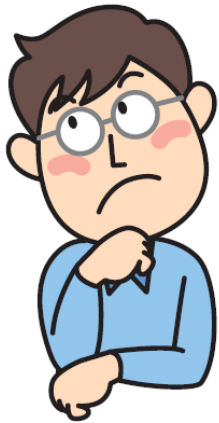


Q

②ペアレンタルコントロールをしない理由は？

※対象：スマホ依存についてペアコン未実施

N=1,478



A

- ◆ 低学年は「そこまでネットを利用していない」が多い
- ◆ 高学年は「子どもを信頼している」「子ども自身が考え学ぶべきこと」が多い

非対策理由（トップ5）	ネット依存の例	特徴
子どもを信頼しているから	25.2%	中高生で高く、低学年で低い
子ども自身が考え学ぶべきことだから	21.1%	小学生まで低い
子ども自身で解決できる年齢だから	13.4%	小学生及び中学1年生まで低い
そこまで子どもが利用していないから	13.1%	小学生全般で高い
普段からよく言い聞かせているので必要ない	12.5%	低学年で高い

ポイント

実施しない理由のうち「子どもを信頼している」はどの心配事でも上位の理由になっている



(2)ペアレンタルコントロールの実施状況



Q

③ペアレンタルコントロールは効果があると思う？

※対象：保護者全体
N=6,150



A

- ◆ 10の不安要素のうち多くの項目で「効果あり」が「効果なし」を上回るが、スマホ依存、身体や健康への影響の2項目は「効果なし」の数値が高かった
- ◆ ただし、小学生低学年と保護者年齢が20~29歳では、スマホ依存、身体や健康への影響についても「効果がある」という回答が「効果がなし」を大きく上回っている

ポイント

いじめ、個人情報保護に関して約5割が、高額課金は6~7割が効果を実感しており不安要素によって効果を感じる割合が異なる



(2)ペアレンタルコントロールの実施状況



Q

④フィルタリングを使っている？

※対象：保護者全体
N=6,150

※本調査のフィルタリングとは「あんしんフィルター」のことを表す

A

- ◆ 中学1年生の約6割がピーク。
- ◆ 中学2年生から「過去は入れていたが、今は入れていない」の率が1割を超えはじめる ※小1～高3全体平均47.9%

<参考：認知率>

あんしんフィルター	62.8%
スクリーンタイム	33.6%
ファミリーリンク	25.5%

認知率：「知っているし、詳細に理解している」+「知っているし、概ね理解している」の合計

ポイント

フィルタリングの利用状況は学齢によって最大で3割近く利用率が異なる



(3)ペアレンタルコントロールを実施している例、していない例



（保護者や子どもの状況）

低年齢から利用している

子どもが小学校低学年／
幼いころからスマホ・タブレット利用

保護者がコントロールしやすい年齢のためペアコンを実施している。
また、子ども自身の失敗によって保護者もペアコンのHOW TOを理解。

（以下は一例）

知識がない、または知識がある

保護者自身がスマホ・タブレットの利用上の
課題に対処する知識やペアコンに対する知識

知識が少ないので不安につながり、情報を取得しペアコンを実施。
知識が多いので対策をよく理解した上でペアコンを実施する傾向。

知識が少ないのでコントロールの仕方がわからず実施に至らず。
知識が多いので保護者自身が解決可能でありペアコンは不要。

必要性を感じない

保護者との関係が良好（よく話す）／
子どもがおとなしい性格など

子どもとの会話でスマホ等の利用状況や交友関係を把握できるため、
声掛けなど他の対策で十分との考えでペアコンを実施していない。

ネットを特別なものとしていない

子どものスマホ・タブレットの制限は
「しつけ・教育」と同じという考え

スマホ・タブレットに限らず「友だちの嫌がることダメ」「知らない人について行くのはダメ」と教育しており、あえてペアコンは実施していない。



ポイント

多くの保護者はネット利用リスクに関心を持っているが、ペアコン実施有無は外的・内的要因で複雑に実施／非実施と分かれている



(4)保護者がペアレンタルコントロールを考える要素

保護者の 関心区分	課題（例）	ペアレンタルコントロールの 方向性（⇒目標）	ペアレンタルコン トロールに つながる考え	ペアレンタルコン トロールを 否定する考え
青少年 有害情報	➤ アダルト、薬物等	➤ 情報に触れさせない	➤ 未成年のうち は規制すべき	➤ 子どもは 見たいものは 何とかして 見ようとする
	➤ 誘い出し等	➤ 情報に触れさせない ⇒見分けられる ようにする	➤ 性的被害を 防ぎたい	
	➤ 架空、フェイク	➤ 情報に触れさせない ⇒見分けられる ようにする	※目立った意見なし	
上記以外	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 長時間利用 ➤ 健康影響 ➤ 個人情報漏洩 ➤ 不適切情報発信 ➤ いじめ被害/加害 ➤ 高額課金 	➤ 課題に対して 指導・管理 ⇒問題を発生 させないように する	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 実際に問題 が生じている ➤ 不安を感じ ている 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ トラブルが 発生したら 適切にア ドバイス する ➤ トラブル から学ぶ べき

ポイント

- ◆ ペアレンタルコントロールを意識するのは依存、学習・健康影響など長時間利用が大きい
- ◆ 青少年有害情報の問題を深刻視しない意見もあった

＜参考＞ 最も気になること 青少年有害情報 = 13.7%※ 左記以外 = 79.1% 特になし = 7.2% 対象：保護者全体（N=6,150）

※「誘い出しや性的被害」「不適切な情報に触れることやその影響」の合計値



ご清聴ありがとうございました。

